

星 辰

No.93

長野市大字南長野
幅下692の2
TEL.026-217-5858

県政だより

発行責任者

県民クラブ・公明大北

宮澤敏文

E-Mail:kenminclub

@ily.ocn.ne.jp

星辰とは、変わるこ
とのないもの、理想

活力の源 農産物づくりが大事 新たな挑戦

北アルプス山麓の最大のテーマの一つは「自然と共生した農業、観光の振興」である。北アルプス山麓ブランド創設など40年間、当地域の農業振興をすすめる大北地域農業振興協議会が、酒米の30%減反など厳しいコメを中心とする北アルプス山麓・安曇野の生産者と農業を守り、振興する本格的な活動をスタートさせた。



人口減少（日本では毎年約70万人／年減少）と新型コロナウイルスの影響で消費が大きく冷え込み、全国的に米価が約15000円／60kgから約13000円／60kgに下落している。特A比率が高く、「日本一おいしい米」を誇る長野米は全農長野等の功績で下げ止まっているが、コメが農業生産額の70%を超える当地域の農家には深刻である。

県試算では、10ha農家の米の年間収入は15000円／60kgで350万円、13000円／60kgになると140万円に減少して、「今こそなんとかしなければならぬ。」令和三年三月、水田農業の未来を考える緊急シンポジウムを開催した。

大町市牛越市長は「新たな農業戦略を」池田町壺町長は「ワイン等の特産品を強化」松川村平林村長は「特産のコメの魅力を高め、酒米を村の主生産物として米農家支援を」白馬村下川村長は「地域内流通の推進を」小谷村中村村長は「伝統ニンニク等特産品の普及を」それぞれ述べた。

総括で宮澤敏文県議（協議会長）は「米価は厳しく、今のままでは農家はやっていけない。高付加価値農産物の栽培を地域を挙げて取り組み、農家収入を拡大し、生産者と農業を守ろう」と表明した。

農業は原則一年一作である。北アルプス山麓地域の課題の米+高付加価値農産物の開発を、市町村担当者、JA大北、流通を担当するJA全農長野からなる「米+高価値作物の栽培検討プロジェクト（会長宮澤県議）」を大北農業振興協議会（事務局北アルプス振興局農政課）の中に設置した。新型コロナウイルスの影響でコメ消費が低迷し売価が低迷する中、不転換の取り組みが続く。

実績2 ガンに敗けない免疫力を

宮澤敏文県議は埼玉医療大名誉教授の和合晴久さんの提言を受けて免疫力アップの切り札のニンニクを自ら八年間有機農業で40a栽培し、普及に取り組んできた。

花とハーブの里ニンニク組合（矢口清隆組合長）を中心に飯山市の農業法人と連携し、「熟成黒ニンニク」の商品化に成功した。

伝統種を守り続ける小谷村でも黒ニンニクの商品化が今年から本格的に始まり、新しい取り組みが産声を上げた。



実績1 クレソンいきいき



米+新作物で宮澤県議の提案で始まった北小谷の荒廃棚田を再開発しての「クレソン栽培」。大北農業振興協議会が支え、杏平地区の小池さんの尽力で見事な圃場となった。白馬村のホテルや築地市場へ出荷されて好評である。

県野菜・花卉試験所で 新たな農産物導入の研究

「米+新農産物プロジェクト」は6月から先進地等研究に入った。「白ネギは連作障害にはどうか」「水田は水を保つ基盤、野菜は水はけが大事。土地改良事業で計画的に進めなくては」「機械化・スマート化しなければ、実際に取り組む人がいない」やりとりが続く。全員真剣である。（塩尻市長野県野菜・花卉試験場）



千曲川の災害を教訓に河川を整備する

**池田町・松川村住民の願い
高瀬川の安全、減災へ整備を急ぐ**

荒れ川高瀬川の氾濫対策は池田町・松川村の願いである。毎年のように、堤防やマレット場が被災にあつてきている。昨年宮澤県議の提案で、高瀬川堤防の強度調査がされた。調査結果ではもろく弱い堤防であることが明らかにされた。薄くなつた堤防に30mの補助堤が築かれ厚くし、河川内の樹木を取り除き、川の流れを真中に導く工事が続けられている。令和四年は北アルプス医療センター上流部の工事が実施予定である。



北アルプス医療センターあづみ病院付近の高瀬川整備状況を、県建設事務所とチェックする宮澤県議



白馬村47スキー場から深空・わらび平の姫川の整備と次期河川計画について県・村関係者と宮澤県議が現地調査する。



観光地白馬村・小谷村は自然をなによりも大切にしている。樹林が繁り、けもの楽にもなっている河川の整備を精力的に行うことは重要である。「川が帰ってきた」との皆さんの励ましを受ける。

小谷村住民の願い完成間近 国道148号雨中 第一トンネル貫通

「騒音や振動で寝れない」住民生活を苦しめ、多くの犠牲者を生んだ国道一四八号の小谷村雨中・月岡地区。昨年の雨中第二トンネル貫通に続き、三三九mの雨中第一トンネルが難工事の末、六月十二日貫通した。
住民の皆様と固い握手をした宮澤県議は「一つづつ課題を実現して、皆で喜べることは、なにより嬉しい」と語った。
(田下県建設部長・宮澤県議・中村小谷村長・企業体責任者)



新型コロナに苦しむ 山小屋を守らねば

県議会山岳環境保全議員連盟(会長宮澤敏文)は新型コロナの影響で厳しい経営下にある山小屋の皆さんを救済しようと、登山道を始め山岳環境維持に貢献する長野県独自の支援対策必要性と山小屋の公益的機能の認知と国への財政的支援を要請した。(六月県議会 知事へ)



JA 厚生連社浦理事長の熱弁
新型コロナで医療機関は大変な状況下にある。一時は大幅な赤字を覚悟した。厚生連関係者は全員精一杯の努力をしたが、長野県農協議員懇話会(会長宮澤県議)を先頭に行政に大変なご尽力を頂き、なんとかいい状況で令和2年末を終了できた。心から感謝したい。
(令和3年6月17日 農協議員懇話会)

新型コロナに取り組む医療関係者に、心から感謝とねぎらいを申し上げます。